

ESD 授業デザインプロジェクト（ESD 学校教育研究会）

・ 概要

ESD 授業デザインプロジェクトとは学校教育でのESDの普及及び理解の促進と授業デザインの検討のためのESD授業デザインプロジェクト公開研究会とESD授業デザインフェスタにより教員を中心に市民・NPO、地域・学校・行政、中間支援が集まり実施するものである。

・ 実施背景や地域の課題

学校教育でESDをすすめるため体制が整っていないのが現状である。
学校教育でESDをすすめるための授業のデザインが必要とされている。

・ 目的・目標

ESD 授業デザインプロジェクトによりESD 授業デザインや教員の場づくり、教材開発、そして進め方の検討など。

・ 実施主体や実施体制

ESD 学校教育研究会は、地域活動や国際活動に実際に携わっている教員と大学教員を中心につくられた。
2007年度からESD 授業デザインプロジェクト公開研究会を行い、ESD 授業デザインの検討を進めている。
また、ESD 授業デザインフェスタを開催し、教員と大学、ユネスコ関係機関、市民、企業などと幅広い学校教育でのESD 展開を行っている。

・ 資金（自己資金なのか、ファンドレイジングなのか等）

自己資金

・ 活動内容

07年度 ESD 授業デザインフェスタ1回、公開研究会3回

ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会 Vol.1

5月12日、「ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会2007 Vol.1」がさいたま市で行われた。

公開研究会ではまず、代表の浅川和也氏（東海学園大学人文学部教員）の「グローバル教育にみる参加型教材」、松本浩一氏（埼玉県立高校教諭）の「県立高校における教科『環境』の授業実践」 陣内雄次氏（宇都宮大学教育学部教員）の「まちづくり学習の事例」、村山史世氏（麻布大学環境政策学科教員）の「高大連携・公民館—大学地域連携」、河野磨美子氏（環境NPO）の「自然を感じる授業」、長岡素彦（持続可能な開発のための教育の10年さいたま）の「ESDの教科の位置づけ」などの発表があった。

ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会 Vol.2

11月11日、「ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会2007 Vol.2」が東京の大東文化会館で行われた。

NHK制作局第1制作センター（学校教育番組）ディレクター窪田栄一氏より「地球データマップ—ESDとテレビ番組」としてESDを意識して制作した番組「地球データマップ」を見ながらその教育での活用などを述べ、会場と論議した。

国際交流の仕事のかたわら教壇に立つ小山紳一郎氏（武蔵大学非常勤講師）は「メディアリテラシーとESD」としてメディアによって構成されている現実をどう読み解くかというメディアリテラシーの重要性、環境問題などの報道の背景を考えることの必要性と知識を行動にどう結びつけるかなどを述べた。

ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会 Vol.3

12月2日、宇都宮市の宇都宮大学で「ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会2007 Vol.3」（主催・ESD 学校教育研究会）が行われた。

公開研究会ではまずESD 学校教育研究会の長岡素彦の「ESDについて」、栃木県環境森林部環境森林政策課課長補佐今

井清人氏の「栃木県における環境学習の取組について」、ワイズティーネットワーク株式会社代表取締役社長根本泰昌氏の事例報告などが行われた。続いて、宇都宮大学教育学部環境教育課程4年の中富千尋氏の「スウェーデンの環境教育とESD」、宇都宮大学教育学部教員陣内雄次氏の「オーストラリアにおける環境共生の暮らし（パーマカルチャー）現地調査の報告」などの海外の事例報告がされた。

午後には、北海道教育大学附属旭川中学校教諭の松田剛史氏の「持続可能な社会のあり方を考える授業展開の工夫 ～映像資料を用いた取り組み～」が行われた。

その後の持続可能な開発のための教育の授業デザインワークショップでは参加者との質疑も交えて論議さ

ESD授業デザインフェスタ

8月18日と19日、「ESD（持続可能な開発のための教育）授業デザインフェスタ」（主催 ESD学校教育研究会）が、さいたま市の下落合コミュニティセンターで開かれた。

今回は、国内内外でESDを積極的に推進している日本ユネスコ協会連盟とユネスコ・アジア文化センターの実践の発表、及びワークショップが行われた。

18日は、挨拶と「ESD授業デザインプロジェクト紹介」（長岡素彦）の後に、日本ユネスコ協会連盟の本間雅子氏が【ずっと地球と生きる】学校プロジェクトなどについて語った。

次に、代表の東海学園大学教員の浅川和也から「持続可能な開発のための教育の授業デザイン」について、宇都宮大学教員の陣内雄次による「グローバルな教育（開発教育・国際理解教育）とローカルな教育（まち学習）を一緒にデザインするーまち学習について」などが語られた。

これらを受けて、ワークショップで現在の学校教育の問題点、教員や学校の問題点を検討し、学校教育でのESDのあり方やコミュニティカリキュラムなどを論議した。

19日には、宇都宮大学教育学部学生の中富千尋氏が「スウェーデンの学校教育に参加して」題として、昨年の半年間、スウェーデンの小学校に行った体験や大学・高校なども訪問したことをもとに「サステナブルスウェーデン」（同国の国家目標）における教育のあり方を述べた。

次に、ユネスコ・アジア文化センターの座波圭美氏が「環境パッケージ教材 シリーズ・プラネット」について語った。

これを受けたワークショップでは同センター大橋知穂氏、座波氏を交えてのプラネット教材の理解のセッションの後、教材活用セッションで「日本国内での活用方法」と「小学校高学年以上の授業案」を作成した。

08年度

ESD 授業デザインフェスタ 2008

8月8日（金）－9日（土） 10時～17時 地球環境パートナーシッププラザ

ESD 授業デザインプロジェクト公開研究会 2008vol1-3

・かかわった人々や社会の変化

人の変容－教員などがESDと持続可能性を理解することで、持続可能な開発をテーマとして活動を推進することが出来るようになった。

・地域の変容－ESD・教育と活動が結びつくことで、地域ぐるみで多様な課題に取り組む素地が出来た。

お問い合わせ先

機関・団体名 ESD 学校教育研究会
住所：〒350-1174 川越市かすみ野2-8-4
TEL：049-257-9000
FAX：049-233-0402
MAIL：info-lab@cyber.email.ne.jp